



愛郷無限

2014年05月12日号 NO.472

写真提供:大田市

土屋館
どやだて通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject：のびのびらんど10周年からボランティアを考える

5月10日にのびのびらんど10周年記念式典が無事に開催されました。商店主の皆さん、青年部メンバー皆さんから沢山の昼食・飲み物の差し入れ応援が集まりました。本当にありがとうございました。お陰様でこの10年を振り返ると共に、これまで運営に尽くしてくれたお婆ちゃん達に心からの感謝することが出来ました。

沢山の来賓の方々にも出席いただき、この10年の様々な活動を知ってもらうことができました。10年前の開設時に商工会議所の会頭であったタカヤナギの高柳恭侑会長はとても印象的な挨拶をされました。その中の一言。「10年前の立ち上げの際、ボランティアの中には男性メンバーも多数いましたが、今ではほとんどいなくなっています。逆に奥さん達は10年もの年月を継続し続け、様々な団体と手を組んで、様々なプログラムを導入し、しかもとても盛り上がっていることを本当に嬉しく思います。しかし、一方で奥さん達がこれほど街のために辛抱強く現場で頑張ってくれている中で、お父さん達（旦那さん達）は何をしているんでしょう？ もっとお父さん達も地域のために汗しなきゃなりません」。全くもって激しく同感です。

ボランティアは人のために成すことでは無く、己のために成すこと。人の為と書いて【偽り】という字になります。誰かから見返りを得るためにすることではなく、己の満足感や達成感、想いの実現のためにあり、それによって自身が成長することが出来る。徳を得ていると感じられる考え方です。またその徳は自分に返ってこなくても子や孫など後身に帰ってきてくれればと考えることです。

あるラジオ番組で歌手の松山千春さんが語った言葉に、若者から賞賛の声が上がっているそうです。「今の人達は【見返り】を求めすぎている。見返りを求めるから辛くなるんだ。見返りを求めなければもっと楽に生きられるはず」。

思うほどの見返りが得られなければ、人には恨み辛みが生じます。人のことを羨んだり、悪く言ったりすることにも繋がるでしょう。

見返りを求めない。とても難しいことであり、見返りを100%考えない行動など人間はなかなか出来ないものです。しかし常に考え、戒めを持つと共に、【公】と【私】をしっかりと区別することによっても出来ることが増えるのではないのでしょうか。

まさに【無私の心】。

ボランティアについて考えるとき、その根本を忘れないように常に手元に置いて自らの戒めとして読んでおきたい本です。

【無私の日本人】

磯田道史著 文芸春秋刊 ISBN：9784163757209 1,575円（税込）

【逝きし世の面影】

渡辺京二著 平凡社文庫 ISBN：978-4-582-76552-6